

The 42nd SUZUKI METHOD GRAND CONCERT

スズキメソッド グランドコンサート



27 March 1996

第44回 卒業式 午後1時
 第42回 グランドコンサート 午後2時開演
 「愛こめて育て能力生き生きと」

1996.3.27(水) 日本武道館 (東京・九段)

後援
 東京都教育委員会 毎日新聞社 日本経済新聞社
 産経新聞社 東京新聞 日本テレビ TBS
 フジテレビジョン テレビ朝日 テレビ東京

目次

愛深ければなすこと多し	鈴木 鎮一	1
1995-アルバム		4~6
1996-スケジュール		7
子供の運命は親の手にあり	鈴木 鎮一	8~9
国境を越え文化に貢献	メアリー・ロビンソン	10
全国大会おめでとうございます	松野 弘明	11
奇跡に感動そのもの	井深 大	12
生命への働きかけ	鈴木ワルトラウト	13
大会を機に、より一層の理解を	本多 正明	14
グランドコンサートへようこそ	寺田 義彦	15
スズキメソードで世界を結ぶ	高橋利夫	16
プログラム		18~19
曲目解説		20~21
—特集— 続けてよかった、スズキメソード		22~24
小林一茶の俳句かるた		26~27
コンサートスタッフ		28

愛深ければ

なすこと多し

鎮一



IF LOVE
 is DEEP
 much can be
 accomplished.



CANON

39th SUZUKI METHOD
The 41th Graduation Ceremony

GRAND CONCERT
社会人 才 研 究 会



幼児の演奏と10チルドレン・コンサート
松本(3月12日)
海外演奏旅行が三十周年を迎えたことを記念してコンサートが開かれました。



**社団法人 才能教育研究会
第25回 関東地区ピアノ科卒業式**
ピアノ科 卒業式
(3月21日～30日、関西地区8月26日)
関東、関西、甲信、東海地区7000名以上の生徒が喜びの卒業証書を手に入れました。

第41回 グランドコンサート・第43回 卒業式

東京 日本武道館 (3月27日)
全国のバイオリン・チェロ・フルート・ピアノ科の生徒達・3000名による演奏が披露され、感動的なコンサートとなりました。



全国指導者研究大会
浜松 (5月29日～6月1日)

ピアノ研究グループ講師研究会
浜松 (6月1日～2日)

全国の指導者が集い、豊田耕児先生(ベルリン芸術大学教授)による弦楽合奏の指導や チェロ科・堤剛先生 ピアノ科・平田美知・ノース先生による研究会も行われました。



第46回 夏期学校
松本(7月25日～8月2日)

第17回 ピアノ科夏期学校
松本(8月2日～5日)

全国から1300名以上の生徒が参加し、本年も猛暑の中レッスンやコンサートが行われ、楽しく刺激を受けた12日間でした。



第12回 スズキメソード 世界大会

アイルランド (7月26日～8月5日)
世界24カ国から約2000人の参加者があり、熱気のある大会となりました。



スズキ フェスティバル イン フィラデルフィア

アメリカ (10月16日～24日)
ドーマン研究所の招きにより、スズキ チルドレン(5名)によるコンサートと広瀬八朗先生によるワークショップが行われました。





リーラ・ジョセフォヴィッツさん来日 松本(4月14日)
 昨年4月に日本各地でコンサートを開かれた、スズキメソード出身でバイオリニストのリーラ・ジョセフォヴィッツさん(16歳中央)が松本の才能教育会館を訪問されました。



九州・福岡支部にチェロ科開設!! 記念コンサート 福岡(9月3日)
 各地のチェロ科生徒達が応援にかけつけ、演奏しました。



第19回 東海大会 江南(10月1日)・豊橋(10月22日)
 おけいこを始めたばかりの生徒達の発表や、本会出身のバイオリニスト大谷康子さん・水野佐知香さんとの共演もありました。



関東地区 スズキデー記念 ピアノ科コンサート 東京(10月15日)
 ヨーロッパで活躍中の江澤聖子さん(本会出身)が、コンサートでお祝いの演奏を披露して下さいました。



第33回 才能教育長野県大会

第33回長野県大会 岡谷(10月22日)
 秋のすがすがしい空気の中、盛大に行われました。



阪神大震災 復興・支援コンサート 松本(4月30日・96'1月27日)
 復興を願って開かれたコンサート・スズキメソード指導者有志と松本支部を中心とした子供達による演奏が繰り広げられました。
 「がんばれ神戸・淡路の皆さん!!」

ピアノ科卒業式

- 甲信地区 3月20日(水) 才能教育会館ホール
- 関東地区 3月26日(火) 東京厚生年金会館
- 東海地区 3月30日(土) 愛知県勤労会館
- 関西地区 3月31日(日) 大阪厚生年金会館

第15回ピアノ科コンサート

3月10日(日) 東京・中央会館

全国指導者研究大会

5月27日(月)~30日(木) グランドホテル浜松

ピアノ研究グループ講師研究会

5月30日(木)~31日(金) グランドホテル浜松

第47回夏期学校

前期7月25日(木)~29日(月) 松本
 後期7月29日(月)~8月2日(金) 松本

第18回ピアノ科夏期学校

8月2日(金)~5日(月) 松本

第20回チェログランドコンサート

9月15日(日) 名古屋市民会館

第7回幼児の能力コンサート

9月16日(月) 東京・キュリアンホール





才能教育研究会会長 鈴木 鎮一

子供の運命は親の手にあり

能力は生まれつきではなく、育てる条件に従って育つ、ということが明らかにわかってきた今日においても、まだ、いかに多くの人々がそのことを知らず、能力の育つよい条件を与えもせずに捨てておいて、さて、やがてその育ちのみじめな姿をみて、やはり生まれつきだ、この子には素質がなかったのだ、と信じている今日の世の中の実状です。どの子もよく育つのです。即ち能力の育つ当然なよい育て方をすれば、どの子供でも、高い優れた能力に育てゆく本質をもっているのです。能力の育つ巧みな育て方によって、世界中の子供達は、それぞれに自分の国の母国語を自由自在に話す高い能力に育て

ゆくその事実大きく目を注ぐべきです。何とどの子供達も、優れた能力に育つではないかと。

われわれは、その母国語の教育法を研究して、先ず音楽の能力を子供達に開発し、いかにどの子供でも立派に育てゆくか、その事実を社会に示し、世界に向かって訴え続けているのです。又、こうして能力の育てられた子供達はみな、学業においても優秀な能力を発揮している事実を私は過去40年はっきりと経験しています。〈子供の運命は親の手にあり〉すべては親の責任です。〈うちの子は、どうも駄目だ、と考える親こそ、うかつな親である〉と、われわれは警鐘を乱打しつづけているわけです。

A CHILD'S DESTINY LIES IN HER PARENT'S HANDS

Shinichi Suzuki, President of the Talent Education Research Association

It is now evident that ability is the product of a person's upbringing rather than an innate quality. Yet, large numbers of people have no knowledge of this truth. Far from providing their children with superior conditions for the nurturance of ability, such parents leave their children to develop on their own. Eventually faced with the distressing results, these parents convince themselves anew that talent is hopelessly inborn, and that their child simply is lacking in aptitude.

Each and every child is equipped with a high degree of potential. Thus, any child raised in an environment conducive to developing that potential will display superior abilities. As confirmation of this fact, we have only to observe that children the world over develop the sophisticated ability to speak their mother tongue with complete ease, and that this condition is a natural result of the effective fostering of ability that occurs in the process of childrearing. We must all appreciate the truth that any child can attain a high level of achievement.

Our mission has been to research the pedagogy of mother-tongue language acquisition in order to develop musical ability in children. We have repeatedly demonstrated to society what superb abilities can be fostered through such methods, and we continue to proclaim these discoveries to the world-at-large.

I have myself witnessed, for the past forty years,

that children whose potential has been nurtured in such a manner also display excellent scholastic aptitude.

As expressed in the motto, "A child's destiny lies in her parents' hands," parents bear a heavy responsibility in the outcome of childrearing. We must keep sounding the alarm and warn people, that "A parent who believes that her child is no good is herself a thoughtless parent."





メアリー・ロビンソン
アイルランド大統領
Mary Robinson
President of IRELAND

国境を越え文化に貢献

鈴木博士の哲学は、広く一般家庭に確実に根付いた教育、特に音楽教育の現場で、その促進と指導に直接に携わっているすべての人々にとって、今後も引き続き大きな励みとなるでしょう。類稀なる思想家、教育者、また賢人である鈴木博士は、早期幼児教育において親が子供に果たす役割がいかに重要であるかを力説されています。博士の思想は、日本の文化的土壌の中で育まれましたが、他国の文化にも多大な影響を及ぼしています。

アイルランド社会において、家庭という単位を中心に考えた場合、スズキメソッドの早期幼児教育法に期待を寄せる親が増えているのは、当然のことと思われます。このように家庭にしっかりと根付いた教育システムに、親が積極的に関与してその進歩を見守れば、子供達の成長を促し、自信を養う一助となります。

こうした背景から、スズキメソッドグランドコンサートは、スズキメソッドが引き続き博士の哲学に基づき国境や文化の違いを越えて世界中にもたらす豊かさと、鈴木博士の献身の生涯を祝い、毎年開催されています。この祝典への参加者の皆様に、心から励ましの言葉をお送りします。



UACHTARÁN NA hÉIREANN
PRESIDENT OF IRELAND

MESSAGE FROM PRESIDENT ROBINSON

The philosophy of Dr. Suzuki continues to be a great source of inspiration to all engaged in promoting and in living out a view of education, and of music education in particular, which is firmly rooted in the social unit of the family. A remarkable thinker, teacher and sage, Dr. Suzuki placed strong emphasis on the vital contribution parents make in the early education of their children. While his views were developed within the cultural norms of Japanese society, they nevertheless have great significance for other cultures.

In view of the position of the family as the core unit in Irish society it is hardly surprising that the Suzuki method of early education is receiving increased attention from parents in Ireland. An education system which is firmly based in the family, with the parents as active partners in the process, enhances the development of children and fosters their self confidence.

And so the All Japan Suzuki National Grand Concert is an annual celebration of the life of Dr. Suzuki and of the enrichment that the Suzuki method, based on his philosophies and transcending national and cultural boundaries, continues to bring to societies throughout the world. To all participating in this celebration I send warmest greetings and good wishes.

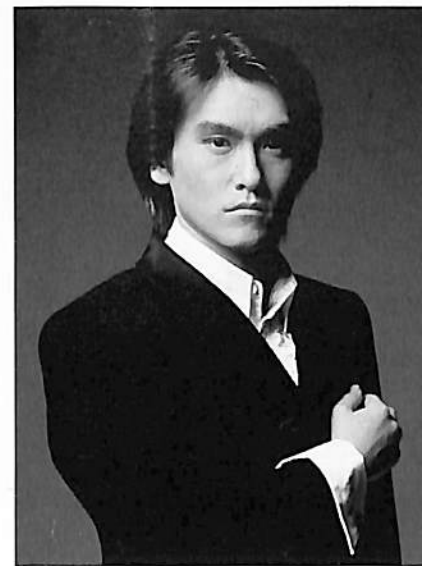
Mary Robinson
MARY ROBINSON
PRESIDENT OF IRELAND

第12回スズキメソッド世界大会は、1995年7月26日から8月5日にかけて、アイルランドのダブリンで開催されました。開会式には今大会の後援者であるメアリー・ロビンソン アイルランド大統領のご出席を仰ぎ、大統領からは感動的なスピーチを賜りました。

ロビンソン大統領はご入場の際に、会場前で両側に整列した200人近い子供達の歓迎演奏に接し大変感激され、ご自身の人生において最も感動的な瞬間だったとその感動を述べられ、スズキメソッドの全人類的な価値を強調すると共に、大会の成功を祈る言葉でスピーチを終えられました。



※写真はアイルランド大使館のパンフレット「日本とアイルランド」より



松野 弘明
Hiroaki Matsuno
Violinist

第42回全国大会開催おめでとうございます。

私が今、バイオリニストとして活動できるのは、才能教育からバイオリンを始めたからだと思っています。小さいときから母に「鈴木先生のお言葉の中に、子供が自然に言葉を覚えるように、音楽も子供の周りにあふれていたなら自然に身に付くようになる、とおっしゃっているのだから毎日練習しなさい。」と言われました。そして気がつくといつも家には、クライスラーのレコードが流れていたのを覚えています。私は、鈴木先生のお言葉が私の音楽に対する基本そのものだと信じています。

本日、演奏されるみなさまも自然に楽しく演奏していただきたいと思います。そしてこのコンサートが素晴らしい大会になることを心からお祈り申し上げます。

Congratulations on the event of the 42nd Grand Concert.

I have no doubt that I owe my present career as a violinist to the fact that I started my violin studies in the Suzuki Method.

From my childhood on, my mother always told me,

"You have to practice every day without fail because Dr. Suzuki says that when children are surrounded by music, they will absorb it naturally, just as they acquire language skill."

Before I knew it, our home was filled with the music of Fritz Kreisler. I believe that Dr. Suzuki's words express my fundamental attitude toward music.

I hope that everyone performing today will play with naturalness and enjoyment. May this be a wonderful Grand Concert for all of you.

プロフィール

- 1967年 甲府市に生まれ、2歳の時、才能教育研究会にてヴァイオリンを始める。
- 1974、75、77年 才能教育海外派遣団(テンチルドレン)の一員として演奏旅行に参加。
- 1981年 全日本学生音楽コンクール・中学生の部全国第1位。
- 1986年 日本音楽コンクール第3位。東京国際室内楽コンクール入選。
- 1987年 "サイウ・キネン・オーケストラ"のヨーロッパ・ツアーに最年少メンバーとして参加。
- 1988年 桐朋学園大学を経て、アメリカのニューイングランド音楽院に留学。
ニューイングランド室内管弦楽団にコンサート・マスター、ソリストとして参加。
- 1991年 東京で、デビュー・リサイタル。
- 1993、94、95年 東京・大阪・名古屋などで、"ニューヨーク・ポップス・オーケストラ"のニューイヤーポップスコンサートにゲスト出演。
- 1996年 3月28日 京都コンサートホールでコンサート。
春から全国ツアーを展開する予定。

松野弘明CD作品(東芝EMI)

「the BEAT」「the KISS」「ユーミン・コンチェルト(四季)」「ニュー・シネマ・パラダイス」
「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」「ザ・パッション」



才能教育研究会 名誉会長
井深 大
Honorary President
Dr. Masaru Ibuka

奇跡に感動そのもの

毎年行われている才能教育研究会全国大会は、日本が世界に誇れる最も感動的なコンサートであります。

ここにご来場の皆様は、目の前の光景で実感されていると思いますが、まだやっとヨチヨチ歩き出したような小さなお子さんから小学生くらいのお子さんを中心になって、3000人が一緒に演奏する美しいビバルディーの響きは感動そのものであります。

初めてこのコンサートに出席したときにはまるで奇跡だと思えませんでした。それが鈴木先生の生み出されたスズキメソッドの効果であることを知り、感激しました。スズキメソッドによれば、子供たちの能力は学習によって歩いたり、しゃべったりするのと同じ様に、もの心がつかないうちから音楽でも、運動でも、学問でも、何でもいくらでも吸収出来る可能性があり、実際に目の前でその効果を見て、私ものめり込むことになりました。

私は、今、スズキメソッドの学習によって、すべての子供たちが心の素直な、やさしい気持ちを持った幸せな大人に育ち、世の中から争いというものが消えて、世界中が平和になることを夢に見ています。

GREETING

The annual Suzuki Method Grand Concert is a truly moving event, a concert in which the Japanese people can take pride before the world.

For those of you here today, what you see before your eyes is the amazing sight of three thousand children playing Vivaldi together. Furthermore, these are children who for the most part are elementary school students and toddlers who look as if they have only begun to walk.

The first time I attended this concert, it seemed nothing less than a miracle to me. I was deeply impressed when I learned that this performance was a product of the Suzuki Method as developed by Dr. Suzuki.

According to the Suzuki Method, in the same way that children learn to walk and talk at an age when they will later have no memory of doing so, we can foster their potential to absorb and learn music, movement, academic subjects, perhaps anything. When I saw the proof of this before me, I was mesmerized.

I dream of someday seeing children everywhere raised according to the principles of the Suzuki Method, so that they mature into sincere, considerate, contented adults. May conflict be extinguished and peace spread throughout the world.



才能教育研究会 副会長
鈴木 ワルトラウト
Vice President
Waltraud Suzuki

生命への働きかけ

親御さんたちは、どなたもご自分の子供が、こよなく立派に育つことを望んでいます。スズキメソッドの根本理念によって、子供たちは優れた能力へと、立派に育って行きます。

スズキメソッドは、音楽や様々な能力を身に付ける手段であるばかりでなく、子供を高い人格の人に育てる教育法であって、それはすなわち、生命についての教育なのです。本日は、第42回スズキメソッド・グランドコンサートに、ようこそお出かけ下さいました。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

GREETING

All parents want the best for their children. The philosophy behind the Suzuki Method will help to bring up well developed children with excellent abilities.

The Suzuki Method is not only a tool for learning music or other faculties, but an educational guidance to develop children's personality; in short: an education for life.

Thank you for joining us today at our 42nd Suzuki Method Grand Concert.





大会委員長
本多 正明
Chairman of the Concert Committee
Dr. Masaaki Honda

大会を機に、より一層の理解を

毎年、大会を開催して40回以上になり、この間、多くの子供が音楽を通して能力を発揮したことは、会の内部ではよく知られているが、残念ながら一般には十分理解されていない。

その理由のひとつに、学術的な研究がされていない面があり、昨年SAS、(スズキ・アカデミック・スタディ)を作り、各大学の心理、教育、文化の先生方から意見を聞く組織が発足した。現在参加されている先生は、大島真信州大学教授、角尾篤子同大助教授、鈴木正幸神戸大学教授、須田勇同大元学長、小野博大学入試センター教授、中嶋嶺雄東京外語大学学長、豊田耕児ベルリン国立芸術大教授、栗原豪彦北海道大教授、及び私である。先生方はそれぞれ忌憚の無い意見を述べられ、今後の会の発展の為大変参考になる。

また最近、アメリカスズキ協会も数名の知名の士を名誉理事に委嘱された。音楽家としてジュリアードのドロシー・デレイ、チェロのスターカー、そしてバイオリンのメニューヒン、トーマス・ロルストン、ジョージ・タブチの各先生。一般からベネット上院議員ガルバリノ・コーネル大学教授、オブライアン・ニューオールリズ学長、サブレット・ケログ財団理事長等の方々である。

1998年に予定されているホノルルの世界大会には是非これらの先生方のご指導を賜りたいと思っている。この様に内外で多くの優れた方々のご理解とご協力を得ることにより、今後、会の発展は多いに期待される。また我々の責任も重かつ大になる。

A WISH FOR INCREASED UNDERSTANDING

Having now presented over forty Annual Grand Concerts, members of our Association have had frequent occasion to recognize how many children have harnessed their potential through musical studies. It is the unfortunate case, however, that the general population does not fully understand the implications of this circumstance.

One reason for this lack of awareness is that this phenomenon has not been scrutinized in rigorous academic fashion. To correct this situation, the Suzuki Academic Study (SAS) was organized as a forum for professors of psychology, education, and culture at various institutions to exchange ideas. Current participants in the study are Prof. Ōshima Makoto and Ass't Prof. Tsuno Atsuko of Shinshū University, Prof. Suzuki Masayuki of Kōbe University, former Kōbe University President, Prof. Suda Isamu, Prof. Ono Hiroshi of the College Entrance Exam Center, Tokyo Foreign Studies University President, Prof. Nakajima Mineo, Hochschule der Künste Berlin Conservatory Prof. Toyoda Koji, Hokkaido University Prof. Kurihara Takehiko, and myself. In creating a space for the free exchange of our professional opinions, we have arrived at a deeper level of understanding that should serve this Association well in its future development.

The American Suzuki Association, as well, has invited a number of reputable scholars and musicians to join its board as honorary committee members. The musicians are Dorothy Delay of Juilliard, the cellist Janos Starker, and violinists Yehudi Menuhin, Thomas Rolston, and Mr. Shoji Tabuchi. Then there are Congressman Scnator Robert F. Bennett, Cornell University Prof. James Garbarino, New Orleans University Chancellor Gregory M St. O'Brien Roger2. Sublett Director Kellogg National Fellowship Program, and others.

It is my hope that, during the 1998 Suzuki Teachers'Conference in Honolulu, we will be privileged to have several of these learned people address us. In eliciting the understanding and cooperation of numerous prominent people from around the world, our Association becomes the focus of increased expectations. In turn, we must realize afresh the weight of our responsibilities and renew our commitment to them.



コンサート実行委員長
寺田 義彦
Concert Planing Committee Chair
Yoshihiko Terada

グランドコンサートへ ようこそ

本日は第42回スズキメソッドグランドコンサートへお越し頂きまして、ありがとうございます。スズキメソッドとは、鈴木鎮一会長が約50年前、幼児が母国語を繰り返すことによって覚え、更に自己の能力と吸収する習得方法からヒントを得、バイオリンの指導から発展させた教育方法です。このメソッドのもうひとつのユニークな点は、長い年月を経て多くの人々に観賞され、また愛されてきた芸術価値の高い作品を、学習する者に「早い時期から触れさせる」ということでした。

ご存じのように、間もなく21世紀を迎えようとしている今日、運動競技や受験勉強の多くが、「対峙する相手、もしくは味方をも含む不特定多数のライバル」を打ち負かす技術の訓練に、陥っていると言えます。また、子供たちを取り巻く環境も、いじめ問題に見られる「集団の中での弱肉強食」という、一種の先祖帰りの様相を呈した感があります。しかしながら、音楽の演奏は、自分の持つ力をベストの状態に引き上げ、尚且つ、周りとの協調を常に努めないと、美しいものは得られない特質を持ちます。このようなことを幼い時から数多く体験し、国や言葉が異なっている、広く支持されている「古今の名曲」を糧としてきた子供たちが成長したら、どのような世界になるのでしょうか。さあ、これから、その未来の世界への切符を持った子供たちが、ここ日本武道館で演奏いたします。どうぞ、最後までお聴きください。そして演奏が終わりましたら、彼らと、更にここまで支えてきたご両親と指導者へも、盛大なる拍手をお願いいたします。

GREETING

Thank you all very much for attending the Forty-Second Suzuki Method Grand Concert.

The Suzuki Method is the pedagogical method developed by Dr. Shinichi Suzuki. It was about fifty years ago that, struck by the fact that young children learn and internalize their mother tongue through repetition, Dr. Suzuki began applying the principles of language-acquisition to violin pedagogy.

A second feature that defines this Method is the tenet that children should be exposed from a tender age to pieces of superior artistic worth that have endured over the years and centuries as works appreciated and loved by many.

It is common knowledge that, as we approach the twenty-first century, much of athletic competition and preparation for high school and college entrance examinations has been reduced to the cultivation of attitudes and skills aimed to "defeat your opponents or rivals, even if they are your friends". The atmosphere younger children are placed in, too, may be said to demonstrate a certain regression to a pack mentality which is most clearly seen in classroom bullying, "the strong feeding on the weak".

In contrast, excellence in musical performance is attained only by raising ones capabilities to their utmost height while simultaneously and consistently striving for harmony with other people. Just imagine what the world would be like if it were populated with adults who, despite differences in language and culture, experienced this reality from a tender age, growing up surrounded by the widely-accepted great classics of old and modern times.

Here at the Japan Budokan, today, we will be treated to a performance by children who possess tickets to the world of the future. Please listen attentively until the end. Then, when they have finished, please give them, and the parents and instructors who have supported and encouraged them to this point, a generous round of applause.

スズキメソッドで世界を結ぶ国際スズキ協会(ISA)

The International Suzuki Association, aiming for the world family by the Suzuki Method



国際スズキ協会理事長
Chairman of ISA
高橋 利夫
Toshiro Takahashi

INTERNATIONAL SUZUKI ASSOCIATION INC.

Office of the Chairman of the Board
3-10-15 Fukashi Matsumoto City Nagano-Ken 390 JAPAN
(0263)33-7710 FAX (0263)36-3566

The International Suzuki Association was founded in 1983 as a non-profit organization in Dallas, Texas, in order to serve as an information and coordination center uniting various Suzuki Associations throughout the world. In 1988, the headquarters moved to Matsumoto city, Japan. ISA is the sole authorized organization which can grant rights to the use of Dr. Suzuki's name, trademarks, and service marks in his name. At present the following associations are registered as regional association members of ISA. They are the Suzuki Association of the Americas, European Suzuki Association, Australian National Council of Suzuki Talent Education Association and Talent Education Research Institute. Each of the 32 country associations belongs to one of the above regional associations. It is said that there are about 7,000 Suzuki teachers and 300,000 students in the world. The ISA is dedicated to the purpose of improving world culture and peace through the international development, promotion, and propagation of the Suzuki Method. In order to achieve its goals, the following have been established as the main priorities of the ISA.

1. Decide and sponsor the Suzuki World Convention and International conference.
2. Hold teacher training workshops in various part of the world.
3. Provide assistance for every country to establish a national Suzuki Association.
4. Support Suzuki teacher training centers.
5. Support domestic and foreign Suzuki students with scholarships for continued training and study.
6. Translate and publish an ISA Journal, Newsletter and other Suzuki literature.

It is said that the 21st century is the age of life force and sensitivity. The Suzuki Method, which can nurture children's sensitivity by working with their life force is really a symbol of the 21st century educational method.

Recently, the major music schools in the world have become filled with students whose early education was in the Suzuki Method. This is persuasive proof that the Suzuki Method is correct and indispensable in music education. The ISA will sponsor the 13th Suzuki Method World Convention with TERI. This, the last Convention in this century, will take place at Honolulu, Hawaii, at the end of June of 1998. I am welcoming as many participants as possible from Japan and I greatly appreciate their financial support and appeal to everyone for their continuing support and cooperation as we face the future together in bringing this revolution in education to the world. In the last few decades, Japan has led the world in areas such as technology, but with the Suzuki Method, Japan is able to make a significant spiritual contribution to the world community.

当協会は世界中のスズキ協会の情報及び管理センターとなるべく、1983年アメリカテキサス州ダラスに本部をもつ公益法人として発足しました。1988年6月より松本に本部事務局を移して活動しています。

ISAは全世界におけるスズキの名に基づく商標とサービスマークに関する独占的な管理権をもつ唯一の正式な協会です。現在ISAの大陸協会会員としてアメリカスズキ協会(SAA)、ヨーロッパスズキ協会(ESA)、オーストラリアスズキ協会(ANCSA)、才能教育研究会(TERI)が登録され、その中に世界32ヶ国のスズキ協会があります。指導者の数は世界に約7,000人、会員は30万人といわれています。ISAの目的は、スズキメソッドの国際的普及と交流活動を通じて世界文化の向上と世界平和に寄与することです。

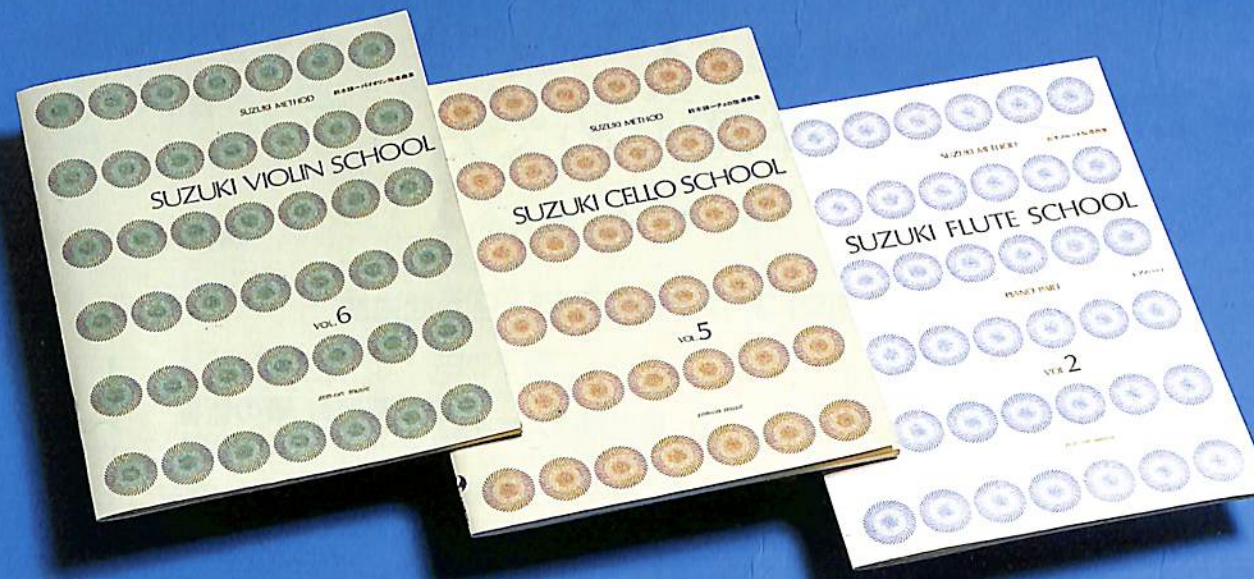
この目的を達成するために主に次のような事業を行います。

1. スズキメソッド世界大会及び国際大会を決定し、後援する。
2. 世界各地におけるスズキ指導者養成研修コースの開催
3. 新しい国における、スズキ協会の設立援助
4. スズキの指導者養成機関の援助
5. 奨学金による内外スズキ留学生の援助
6. ニュース、ジャーナル、及びスズキ関連の著作物の発行、頒布

21世紀は生命と感性の時代と言われています。愛の環境の中で子供達の生命力に働きかけて感性を育てようとするスズキメソッドはまさに21世紀の象徴的な教育法です。今日欧米の音楽大学の優れた学生の7、8割方はスズキで教育された学生になってきました。今迄日本人は世界に対して何ら精神的な貢献をしてこれませんでした。スズキメソッドこそ我々日本人が世界に貢献できる唯一の誇りうるソフトとなるでしょう。1998年の6月末にはホノルルで才能教育研究会との共催で第13回の今世紀最後のスズキメソッド世界大会を開催します。皆様多数の御参加を期待するとともに、鈴木先生の悲願である「どの子も育つ世界の教育革命」の実現の為に今後とも皆様の一層のご支援をお願い致します。

どの子も育つ 育て方ひとつ

世界に誇る SUZUKI METHOD



SUZUKI VIOLIN SCHOOL

鈴木鎮一バイオリン指導曲集 【全10巻】

鈴木鎮一著 (社団法人才能教育研究会会長)

①～⑥各¥2,600/⑦・⑧各¥3,300/⑨¥1,800/⑩¥1,700 [①～⑧CD付/⑨・⑩CDなし]

SUZUKI CELLO SCHOOL

鈴木鎮一チェロ指導曲集 【全8巻】

才能教育研究会編 ①～③各¥2,600 [CD付]/④～⑧各¥1,500

SUZUKI FLUTE SCHOOL

鈴木鎮一フルート指導曲集 【全7巻】

高橋利夫著 ①～⑥各¥2,400/⑦¥2,500 [①～⑦CD付]

副教材

五度の教本	¥900
ポジションエチュード	¥900
読譜の練習	¥1,400
ホームコンサート	① ¥1,200/② ¥1,400
合奏用第2バイオリン	¥750

モイーズとの対話

【おいたちと演奏論】
高橋利夫著 4・6判・208頁 ¥1,800
●鈴木メソッドによるピアノの学習
音楽を超えて
【先生と親子のための手引書】
キャロルL. ビグラー/ヴァレリー・ロイド=ワッツ共著
細田和枝/熊谷周子 共訳
全音判・264頁 ¥4,000

バイオリン奏法

L・モーツァルト著/塚原哲夫訳
B5判・202頁 ¥3,500

フルート奏法

J・クヴァンツ著/荒川恒子訳
B5判・340頁 ¥5,500

(消費税は含まれていません)

The 44th Graduation Ceremony

第44回 卒業式 午後1時

CONGRATULATIONS

ご卒業おめでとう



1996年3月27日(水) 日本武道館

祝賀演奏 Koto Performance Dedicated to the Graduates	正派邦楽会 箏の皆様 by Seiha Hogakkai
六段の調べ Rokudan Kengyo Yatsushashi	
松籟譜 Shōraifu Utashito Nakajima	
御挨拶 Opening Address	大会委員長 本多 正明 Dr. Masaaki Honda, Chairman of the Grand Concert
御挨拶 Greeting	会長 鈴木 鎮一 Dr. Shinichi Suzuki, President
卒業証書授与 Presentation of Certificates	会長 鈴木 鎮一 Dr. Shinichi Suzuki, President
祝辞 Congratulatory Speech	名誉会長 井深 大 Dr. Masaru Ibuka, Honorary President
各科卒業演奏 Performance of the graduation piece	平成7年度卒業生 Graduates

かけがえのないバイオリン

3歳から才能教育研究会でバイオリンを始めました。あれから約19年、一言では言い尽せないほどの年月を共に過ごしました。常にバイオリンが私の生活の主役だったというわけではありません。テスト、受験に迫られた中学、高校の6年間は、かろうじて週1回のレッスンに通ったという状態でした。

忙しかった10代に引き替え、とても余裕のある学生生活を送っている今、初めて自分から楽しんで「好き」という気持ちを味わいつつ、弾いています。その曲を作ったモーツァルトなりベートーヴェンなりが、何を表現したかったんだろう、と想像しながら、勝手に解釈して楽しんでいます。

20歳をすぎた今、初めて心からバイオリンを続けてよかったと感じています。文字や言葉でない表現手段を私は持って良かった、と思います。だから、どうぞ皆さんが小さい時にスズキメソッドの全課程を終了しても、やめないでほしいと思います。膨大な時間やお金を費やしたけれど私がバイオリンから与えてもらったものは、かけがえのないものでした。

バイオリン科第四期卒業 山内淑江 (22歳)

The 42nd Suzuki Method Grand Concert

第42回 スズキメソッド グランドコンサート 午後2時

Program

● 箏とバイオリン Koto and Violin	春の海 Haru no Umi	宮城 道雄 Michio Miyagi
● ピアノ斉奏 Piano	ジーク Gigue	バッハ Bach
● フルート斉奏 Flute	トルコ行進曲 Turkish March	モーツァルト Mozart
	アレグレット Allegretto	ゴダール Godard
	道化のセレナーデ Serenade a Pierrette	シュルツ Schultz
	庭の千草 The Last Rose of Summer	アイルランド民謡 Irish Folk Song
	ヴェニスのカニ祭 The Carnival of Venice	ジュナン Genin
● チェロ斉奏 Cello	協奏曲 八長調 第1楽章 Concerto in C, 1st. mov.	ハイドン J. Haydn
	白鳥 The Swan	サン＝サーンス Saint-Saens
	スケルツォ Scherzo	ウェブスター Webster
	マーチ ト長調 March in G	バッハ Bach
	フランス民謡 French Folk Song	外国曲 Folk Song
● フルートと弦楽合奏 Flute and Strings	管弦楽組曲より「ロンドとポロネーズ」 Rondeau and Polonaise from "Suite NO.2 in b"	バッハ Bach
● 弦楽合奏 String Ensemble	協奏曲 イ短調 第1楽章 Concerto in a, 1st. mov.	バッハ Bach
● バイオリン斉奏 Violin	協奏曲 ホ短調 第3楽章 Concerto in e, 3rd. mov.	メンデルスゾーン Mendelssohn
	アレグロ Allegro	フィオッコ Fiocco
	二つのバイオリンの為の協奏曲 第1楽章 Concerto for Two Violins, 1st. mov.	バッハ Bach
	協奏曲 イ短調 第1楽章 Concerto in a, 1st. mov.	ビバルディ Vivaldi
	ユーモレスク Humoresque	ドボルザーク Dvorak
	カノン Canon	モーツァルト Mozart
	ガボット Gavotte	リュリ Lully
	狩人の合唱 Hunters' Chorus	ウェーバー Weber
	メヌエット 第1番 Minuet No.1	バッハ Bach
● フィナーレ Finale	一茶の俳句 唱和 Haiku Verses Kobayashi Issa	
合奏 Violin	アレグロ Allegro	鈴木 鎮一 Shinichi Suzuki
チェロ Cello	無窮動 Perpetual Motion	鈴木 鎮一 Shinichi Suzuki
フルート Flute	キラキラ星変奏曲 Twinkle little Star Variations	鈴木 鎮一 Shinichi Suzuki

PIANO
ピアノ

ジーグ バッハ
組曲「パルティータ第1番」全6曲の最終曲として書かれたものです。ジーグとは古典舞曲のひとつですが、バッハは舞曲的性格から脱した新しい手法でこの曲を仕上げています。



FLUTE
フルート

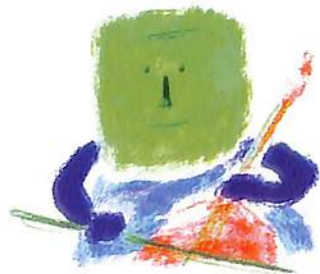
庭の千草 アイルランド民謡
日本では「庭の千草」として知られている曲ですが、『The Last Rose of Summer』というのが本当の曲名です。このメロディーをテーマにした庭の千草変奏曲(クーラウ作曲)がフルーティストのレパートリーとして有名です。



道化のセレナーデ シュルツ
作曲者のJ.シュルツは、1875年にポーランドで生まれた人で日本ではソプラノとピアノのための「月の光」Op.83が知られています。「道化のセレナーデ」は、もともとオペラの付随音楽であったバイオリンの曲をフランスのフルーティスト・エネバンがフルート独奏曲に編曲したものです。

CELLO
チェロ

白鳥 サン=サーンス
この曲はサン=サーンスが51歳の時、友人のチェリストに作曲した組曲「動物の謝肉祭」の第13曲めです。静かにすべるように泳ぐ白鳥の姿をまね息の長いフレーズの旋律を演奏します。「うちの子が白鳥を弾いたらどんなに素敵かしら」と思って始めさせたチェロ。お母様は朗々としてゆったりした曲が大好き。一方子供達は活発で速い曲が大好き。「白鳥」が前者なら(スケルツォ)は後者。スケルツォが宿題になるとテンポが速くて目を白黒。〈白鳥〉が宿題になると今度はゆっくりした弓使いに閉口。お母様「こんなはずじゃなかった・・・」その頃グランドコンサートでみた〈ハイドンのチェロ協奏曲〉子供達「・・・カッコイイ!!」そしてハイドンが弾けるようになった頃、子供達はチェロを自由に操れるようになっています。勿論、白鳥も上手に弾けます。お母様「やめないで続けさせて本当によかった。」「継続は、力なり」です。



FLUTE & STRING
ENSEMBLE
弦楽合奏



管弦楽組曲より「ロンドとポロネーズ」 バッハ
バッハの4曲ある管弦楽組曲の中で最も多く演奏されるこの曲は、フルートと弦楽器のやわらかなひびきが調和を保ちながら、フルートが協奏曲風に活躍していくとても美しい曲です。本日は、第7楽章までである中で、第2楽章のロンドと第5楽章のポロネーズをフルート科生徒約30名とバイオリン、チェロ科生徒約320名で楽しくアンサンブルしてみましょう。
最初のロンドは、フランスで始まった舞曲で8小節の主題に、これより長い間奏がはさまってくり返される曲です。ポロネーズはその名のようにポーランドに由来し、フランスで流行していきました。低音の旋律の上をフルートが細分された形で演奏されてゆくととても親しみのある舞曲です。

VIOLIN
バイオリン

バイオリン協奏曲ホ短調第3楽章 メンデルスゾーン
1991年第37回以来、久しぶりのメンデルスゾーンの音楽です。本会での最後の卒業課題曲であるこの曲は、バイオリンを習い始めて一度は弾いてみたい憧れの曲ではないでしょうか。ベートーヴェン、ブラームスの名作と共に「3大バイオリン協奏曲」と呼ばれている傑作です。全曲は、続けて演奏される3楽章からなっていますが、本日は序奏に始まる3楽章を演奏します。旋律の優美さ、ハーモニーの豊かさ、エレガントな味わいなど、けんらんとした技巧を発揮しつつ、聞く人々の心にきっとしみこんでいく事でしょう。本日は約100名の生徒で演奏いたします。

4声のカノン モーツァルト
カノンとは輪唱形式の曲のことで、始めに示される1声部を模倣していく曲のことです。モーツァルトのこの曲は10のカノン、(K553~562)の8曲目のK560「おお、おまえ、ばかなマルティーンよ」という曲で、こっけいな、くだけた少々下品な歌詞をもった曲なのです。歌は、1分前後の短い曲ですが、これをバイオリンの4声で演奏いたしますと、やはりモーツァルトの気品あふれたすばらしい曲に変身してしまいます。4部に分かれたバイオリンの合奏曲として、初級の生徒のアンサンブルの勉強に最適な作品となっています。



続けてよかった、スズキメソッド

毎日の練習の積み重ねが、
いずれ大きな成果となってあらわれます。
とは言っても続けることは大変なこと。
同じ悩みをもつ全国のお母さん、お父さんからお話を伺いました。

長く続けるためにこんな 意欲作りをしてきました。

〈甲信 バイオリン 11年〉

- ・他人との進み具合を決して比較しない。
- ・コンサートなどいろいろな行事に参加して親子で良く楽しむ事。
- ・子供が苦手なところにぶつかっても諦めず、根気よくする。又、出来る様になったら誉める。

〈関東 バイオリン 9年〉

- ・父母がバイオリン（音楽）を大切にしていることを何かにつけて話しました。又、生活の中に音楽の楽しさを感じられるよう配慮しました。（B.G.Mをかけるとか、家族でコンサートにでかけるとか。）
- ・上手に弾けた時は、大げさと言えるほど親が喜びました。（始めて4～5年間）
- ・寝る時間 = 遊ぶ時間 = 食事の時間 = ヴァイオリンの練習時間と生活の中に違和感なく溶け込むよう考えました。（始めてから3年くらい）

〈甲信 バイオリン 12年〉

小さい時は、とにかく誉めてあげました。又、家庭訪問の際に担任の先生に聴いていただいたり、祖父母の家へ遊びに行く時も楽器持参で行き、みんなの前で弾く様にしたりして、いろいろな場面で多くの人に聴いていただきました。それがまた本人の励みになったようです。長く続けてこられたのは、毎日の日課にバイオリンの練習がいつの間にか定着したせいではないかと思っています。

〈関東 バイオリン 15年〉

小さな頃は、沢山の演奏会につれて行き、「あの曲が弾けたら素敵ね!!」と目標を持たせました。そして、その曲が少しでも弾けるようになると「上手ね」と、誉めました。又、弟が始めてからは、二人で第一、第二を弾いて楽しく合奏する様にしました。この様なことが果たして意欲作りにな

ったかどうかわかりませんが、上の子は大学生になった今も、オーケストラでの活動を楽しんでおります。本人の努力も大変と思いますが親の諦めない心が大切で、細く長くがモットーでした。

〈東海 バイオリン チェロ 21年〉

あまりいい母親ではありませんでしたが、ここまで続けてきたことを考えると、「あせらず、くらす、あきらめず”マイペースでやってきたのがよかったのかな、”と思います。子供に対しては励まし続け、自分に対しては反省と希望を、そして先生に対しては理解と信頼を持つよう努力したことでしょうか。

〈関西 バイオリン 14年〉

子供の年齢の低い頃は遊ぶ事も非常に大切な事だったので、おけいこの時間を作り出してやる事に苦心しました。朝、学校へ登校する前に1時間位おけいこして出掛けて行ったことも、今となっては良い思い出です。大きくなってからは本人に任せ、曲が先に進む事ばかりを本人が気にする事のない様に励まして、今日までできました。

〈九州 バイオリン 10年〉

レッスンを始めた頃は、決して気負った気持ちがあったわけではなく、一步、一步前に進む事だけを考えていた様に思います。そのうちに親も子も音楽を好きになり、バイオリンという初めて触れた楽器を愛し始めていった様に思います。その事が長く続けられた唯一の理由だと思っています。

〈沖縄 バイオリン 11年〉

コンサートや合宿、お泊まり会など、支部主催の行事には、親子で参加し、バイオリンも子供と一緒に習いました。子供の為というより自分の練習の為に、ずっとレコードを流していたので、気負わずに続けてこられました。でも何よりも大きな力は、先生の音色です。先生の音色に魅せられて、子供たちがその音に近づきたいと自然に願って続けてこれた気がします。感動せずにはいられないとても美しい音色です。

急がず、休まず、諦めず。

これから始められる方へ、 こんなところを参考に。

〈バイオリン 12年〉

バイオリンを習わせ、上手にさせようと思って入会されるのではなく音楽を通して鈴木先生の心、人間教育を親と一緒に学び、子供も学んで行ってくれたら良いと思います。

〈北越 バイオリン 15年〉

誉めることの大切さを感じています。いつ、どこで、どのように誉めるかということ。

アドバイスの言葉は相手を尊重して選ぶこと。

〈甲信 バイオリン 12年〉

支部のコンサートや教室のコンサート、長期休みの合宿等に参加していると自然に友だちができ、友だちに会うのが楽しみで又参加するといった良いサイクルが出来ます。進度にばかり気をとられず（特に親が）演奏する楽しさを親子で培っていきたいと思っています。

〈甲信 バイオリン 16年〉

・良さ…音、音楽の魂を授けていただいたような気がします。レッスンはいつでも公開方式なので親も子もとても勉強になります。夏期学校、合宿、コンサート前のリハーサルなどで他の先生のレッスンも受けられるのがまた新鮮で意欲につながります。

・落とし穴…公開方式の為、お友だちの進度がよくわかり、変な競争意識にとらわれてしまうことが、ややもするとあるかもしれません。親にも子にも、これはあまり良い結果にならないと思います。あくまでもマイペースで。

〈関東 バイオリン科 15年〉

他の音楽教室を知らないので比較できませんが、一般的な教室のように父兄がお金を出して、あとはあまり参加する場がないというのではなく、良く言えば人とのつながりを大切にして和が広がる会だと思います。わずらわしさ、とらえる方もいるかもしれませんが、親同士のつながりが成長過程の悩みの相談や先輩の体験談を聞くといった、人の和になりすばらしいと思います。

〈東海 バイオリン チェロ 21年〉

スズキメソッドは音楽を通して親子で育っていくシステムです。すぐに目に見える結果のものでありませんが、たくさんの方を学び、考えることが出来ます。そして目には見えないかけがえのない貴重なものを得ることが出来ます。しかし、その為にはもちろん、たくさんの方の苦勞を乗り越えなくてはなりません。私たちは、つい目に見えることで計ってしまうのが失敗の原因ではないでしょうか。

〈東海 バイオリン 22年 父〉

まず信じる。どの子もきっと立派に育つ道があるということ。そして先生の指導を素直に実行しようとする。

〈東海 バイオリン 17年〉

素直な気持ちで、先生のアドバイスを受け止めて、前向きに考えていくと良いと思います。険しい山を越えてこそ、本当の音楽の楽しさを味わうことができます。20才を目標に。

〈関西 バイオリン 14年〉

音楽が子供の体の中へ、長い年月をかけて徐々に染み込んでくるのを実感しております。鈴木先生のおっしゃっている高い感覚の人間に育っていついてくれていると思います。幼児期に初めて出会った先生から、バイオリンを通して、人格の形成の基礎を作っていたら、親子ともども幸せだと思っています。何の曲が弾ける様になるという事ではなく、そこへたどり着くプロセスを、親は大切に思っで見つめてやるべきだと思います。

〈九州 バイオリン 10年〉

子供が新しいことに挑戦するには、やはり親の手助けが必要になります。根気良く、忍耐強くすることが大切です。そして、先生と親と子の三人の連携プレーが必要だと思います。このことは大切な子育ての一部なのだと思います。このことを知って下さい。バイオリンを通して、親と子の強い絆と充実感を持つことが出来る一方で、親がレッスンに深く係わるという事が親離れしにくい状況に陥る可能性がある様に思います。いつ、どんな風に手を離すかを考えて続けなければならないと思います。

急がず、休まず、諦めず。

スズキメソードの良さを、 もっと広く知っていただきたい！

〈北越 バイオリン 15年〉

音を追求する心がバイオリンを越えて生活の基本になる様に育ってほしいと思います。他との比較ではなく、自分を磨く為の努力であってほしいものです。偏差値教育で育った親が競争ではなく、協奏で子供を育てることを理解し合えればいいですね。

〈甲信 バイオリン 14年〉

教室の数を広く増やすか、自宅へ来てくれる先生が居たりすると助かる人もいると思うのですが…。成人クラスもあつたらいいかもしれません。

〈関東 バイオリン 18年〉

才能教育音楽学校のことを通信で見て、未来に希望を持ちました。優秀な指導者の方々が育つことを期待します。私たちの支部に幼児教室があり、良い試みだと思います。赤ちゃんの時、ヤマハなどのダイレクトメールは大変な量で、スズキももっと知らせたらよいでしょう。スズキメソードによる幼児教育の講演会を開き、その存在と考え方を知ってもらうことが必要です。

〈東海 バイオリン チェロ 21年〉

スズキメソードは本来音楽を通して子供を育てるのが目的だと思います。スズキメソードの原則に忠実に育てた結

果、とても早い時期に高度な曲が弾ける。その子はもちろん、人間として立派に育っているはずです。(親も)

ところが何歳で何の曲が弾けるということが先行してしまっているのが現状だと思います。スズキメソードがもっと世の中に受け入れられるようにする為には、親も先生もみんなと一緒に謙虚に話し合うことが必要ではないでしょうか。

〈東海 バイオリン 17年〉

子育ての基本は、現在も将来も根本的には変わらないので、現在の方法で良いと思う。と同時に、働く母親が増えることをに対する対処の方法を考えるべきかと思えます。

〈関西 バイオリン 16年〉

親子で信頼を寄せるに値する指導者の教育が大切ではないでしょうか。多くの生徒や親は先生を通して鈴木先生を、又、スズキメソードを知り、実践する訳ですから、常に勉強も実践も前を向いている指導者を育てる事がひいては会員を増やすことにもつながると思います。

〈九州 バイオリン 10年〉

スズキの子供たちは本当に良く育っていると思います。素晴らしい能力を発揮している子供も多くなります。でもこの能力を発揮する場が内向きばかりなのが残念です。スズキの中にしか発表の場がないということは、皆さんに知っていただける機会が少ないという事です。もっと外へ向けて発表する機会を作っていく必要があるのではないのでしょうか。



I.S.A. (国際スズキ協会) からのお願い

ご家庭に眠っている楽器をおくってください。

「どの子も育つ、育て方ひとつ」がスズキメソードの根本の大きな柱であれば「人は環境の子なり」も同じく、そのひとつであります。現在、残念なことですが、スズキメソードを自国の子供たちの教育へ取り入れたくても、社会的な経済基盤が弱いために、実現できない国があります。そこで、このような国々の環境づくりに、使われていない分数楽器を役立てることを、グランドコンサート出演者へ呼び掛けています。本日、この日本武道館の会場に集められました各家庭に眠っていた楽器は、国際スズキ協会の手で修理を行ない、海外の国々へ送られます。再び幼い子供たちと一緒に音楽を奏することは、楽器にとっても喜びとなるでしょう。

"We need your used instruments!"

In the Suzuki Method, "Man is a son of his environment" is as basic a philosophy as "Every Child can be educated".

Regrettably, at present there are many developing countries where they cannot adopt the Suzuki Method under their present economic conditions. Therefore we are appealing to today's participants to donate their used instruments for the children in such countries. ISA will check and repair the instruments and send them out to the countries in need.

We are looking forward to welcoming the children with those instruments and enjoying a marvelous ensemble together in the future.

I.S.A. (国際スズキ協会) 協力 (株)伊藤楽器

おけいこの要点がわかる！！

鈴木鎮一著 1965年度版完全復刻版 「バイオリンの教育法」

(株)全音楽譜出版社
¥750 (売店で販売中)

- 〈内容〉
- ・最初は親にバイオリンのおけいこを指導する
 - ・子供にバイオリンのおけいこを始める準備
 - ・開放絃でタカタカタッ
 - ・才能教育法
 - ・才能教育の原理 (鈴木理論)

小林一茶の俳句かるた

3,000人の出演生徒全員で小林一茶の俳句を唱和します。

これは次のねらいから、
鈴木鎮一会長が選んだ俳句を使っています。

1. 早い時期から一茶の童心あふれる俳句に親しみ、心を豊かにする。
2. 俳句の季語に接することで、四季の移り変わりを感じとる。

3. 俳句に使われている、美しい日本の言葉の響きを知る。
4. 五七五という幼児でも覚えやすい文で、記憶能力を高める。本会では、各教室や各家庭で俳句テープ、俳句カルタを使って、子供が遊びながら学習するように指導しております。

50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29

信濃路や 山の上にも 田植笠
つく羽根に 転びながらに 一つかな
たのもしや てんつるてんの 初裕
おらが世や そこの草も 餅になる
雪とける 解けると鳩の 鳴く木かな
霜がれや 米くれろとて 鳴く雀
足元へ いつ来たりしよ かつむり
涼しさに ぶらぶら下がる 毛虫かな
ちよんぼりと 富士の小胸の 柳かな
菜の花や かすみの裾に 少しすつ
うつくしや 障子の穴の 天の川
のみの跡 数えながらに 添え乳かな
梅咲けど 鶯なげと 一人かな
春雨や 雀口あく 膳の先
我と来て 遊べや親の ない雀
茶の花に かくれんぼする 雀かな
木曾山に 流れ入りけり 天の川
名月を 取つてくれろと 泣く子かな
団栗の 寝ねんころり ころりかな
雀の子 そのけそこのけ お馬が通る
馬の子や 横にくわえし 草の花
鶯が ちよいと隣の ついでかな

28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

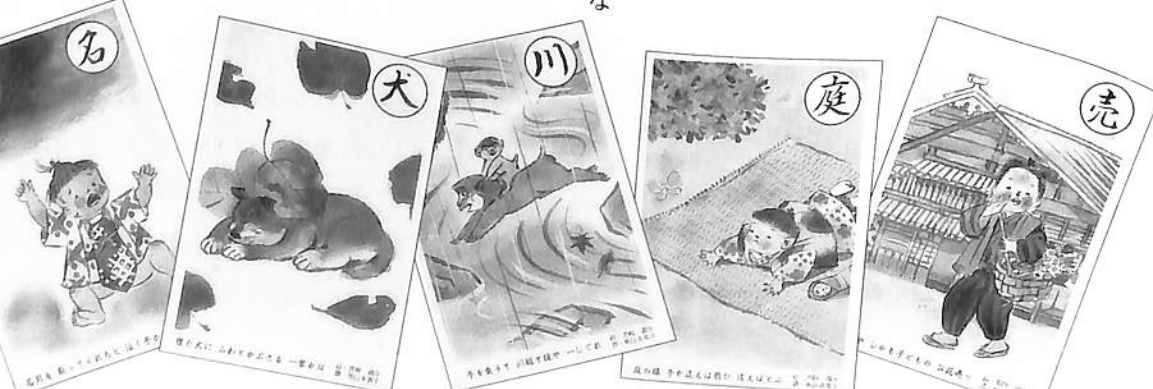
年とえば 片手出す子や 衣更
子を負うて 川越す猿や 一しぐれ
大蛭 ゆらりゆらりと 通りけり
ゆうせんと して山を見る 蛙かな
大井川 見えてそれから 雲雀かな
春風や 牛に引かれて 善光寺
わんぱくや 縛られながら 呼ぶ蛭
三日月や ふわりと梅に 鶯が
紫の 袖にちりけり 春の雪
うまさうな 雪がふわり ふわりかな
夜の雪 黙つて通る 人もあり
朝顔の 数える程に なりにけり
やれ打つな 蠅が手をすり 足をする
柿の木で あえと答える 小僧かな
洪柿と鳥も知つて 通りけり
這え笑え 二つになるぞ 今朝からは
口あけて 親待つ鳥や 秋の雨
春雨や 猫に踊りを 教える子
鶯や ちよと来るにも 親子連れ
大仏の 鼻から出たる つばめかな
やせ蛙 負けるな一茶 これにあり
初雪や 一二三四 五六人
雪とけて 村いっばいの 子どもかな
ぶらんこや 桜の花を 持ちながら
日本は 這入口から 桜かな
草の葉に かくれんぼする 蛙かな
露の葉に 飛んでひつくり 蛙かな
猫の子の ちよいと押える 木の葉かな

100 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79

こう生きて いるも不思議ぞ 花の陰
うす壁に ずんづと寒が 入りにけり
小さい子が 草背負けり 五月雨
めでたさも 中位なり おらが春
頬べたに 当などしたる まくわかな
吹きやられ 吹きやられたる こ蝶かな
散われ くりくり枕を 負う子供
露の夜は 露の世ながら さりながら
五月雨や 肩など叩く 火吹竹
投げ出した 足の先なり 雲の峰
このように 枯れてもさわぐ すすきかな
朝霜や しかも子どもの お花売り
投げ出した 足の先なり 雲の峰
五月雨や 肩など叩く 火吹竹
露の夜は 露の世ながら さりながら
散われ くりくり枕を 負う子供
吹きやられ 吹きやられたる こ蝶かな
頬べたに 当などしたる まくわかな
めでたさも 中位なり おらが春
小さい子が 草背負けり 五月雨
うす壁に ずんづと寒が 入りにけり
こう生きて いるも不思議ぞ 花の陰

78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51

のどけさや 浅間のけぶり 昼の月
暑き夜や 子に踏ませたる 足のうら
手に足に おきどころなき 暑さかな
雪ちらり ちらり見事な 月夜かな
ふるさとや 餅につき込む 春の雪
日の暮れに 風の揃うや 町の空
はなやかに 朝日のかかる 野菊かな
茸がりの から手でもどる 騒ぎかな
さあござれ ここまでござれ 雀の子
さあござれ ここまでござれ 雀の子
大根引き 大根を道で 教えけり
よし切りや 一本竹の てっぺんに
庭の蝶 子が這えば飛び 這えばとぶ
牛の子の 顔をつんだす 椿かな
秋風や むしりたがりし 赤い花
寝た犬に ふわとかぶさる 一葉かな
むさし野や 水溜りの 富士の山
浮き草や 浮世の風の いうなりに
母馬が 番して吞ます 清水かな
母馬が 番して吞ます 清水かな
昼飯を ぶらさげて居る かかしかな
暮飯を ぶらさげて居る かかしかな
路の葉に ぼんと穴あく 暑さかな
秋風に 歩いて逃げる 蛭かな
寝返りを するぞこのけ きりぎりす
じつとして 馬に駈る 蛙かな
身の上の 鐘と知りつつ 夕涼み
松陰や ござ一枚の 夏座敷
すす払い 藪の雀の 寝所まで
大の字に 寝て涼しさよ 淋しさよ
本町を ぶらりぶらりと 蛭かな



俳句かるた
絵 黒崎義介
書 秋山貴美子

CONCERT STAFF

コンサート スタッフ

大会委員長 本多 正明
大会副委員長 藍川 安隆 広瀬 八朗
実行委員会 <委員長> 寺田 義彦
<副委員長> 藍川 政隆 大坂 和彦 千田 成子
<委員> 青木美知子 荒木千香子 小川みよ子 草薙 薫
佐々木弘明 清水 尚志 飛永 信康 長坂 麻史
仲村 智子 名取 由佳 奈良 龍二 早川 薫
諸永 潤
<広報担当> 正岡 紘子 山田 裕子
関東地区支部長会 <幹事長> 山本和人
<幹事> 平岩恵子 大西裕之 大川富美子
荒木紀子 上山光義 亀井美栄子 後藤芳子
小野美智代 佐藤史子
ピアノ伴奏 石川 咲子 佐古 玲子 ピカリ直美
アナウンサー 相川みどり 鶴岡佐代子 諸永 潤
賛助出演(箏) 正派邦楽会 総裁・家元 中島 靖子
ツールデザイン (株) 工楽社 (桑名) 03-3465-4855
ポスター・チラシ
プログラム
オリジナルグッズ
キャラクターデザイン 桑名大伸
編集・印刷 (株) 工楽社 (桑名) 03-3465-4855
(株) 電算印刷 (高山) 03-3294-8094
音響設営 (株) イーストウェーブ (今岡) 03-3381-6226
会場設営 (株) ムラヤマ (犬伏) 03-3813-1204
照明設営 (株) 共立 (志村) 03-3469-1504
ビデオ撮影 (株) 千代田ビデオ (和久) 03-3215-2741
フラワーデザイン (株) 国際フローリスト・トーキョー 03-3708-8700
翻訳 リリー・セルデン
大会テーマ 岬 麻衣子
キーチェーンデザイン 高崎由樹子
キーチェーン製作 (株) フタバメタル (海老澤) 03-3831-1591
Special thanks 細川 博 (才能教育研究会 編集部)
河野由起子 (国際スズキ協会)
林 美穂 (才能教育研究会 本部職員)
カリグラフィー (1頁) COPYRIGHT © 1981 by Jacquelyn Z. Corina
All rights reserved.

事務所所在地 社団法人 才能教育研究会

本部 〒390 長野県松本市深志3-10-3 TEL 0263-32-7171
東京事務所 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9
主婦の友文化センタービル 4F
TEL 03-3295-0270
東海事務所 〒461 名古屋市東区東桜1-10-3 則武ビル 6F
TEL 052-951-1352



慧才能教育研究会